

植物
防疫
講座

虫害編-28 テンサイに発生する害虫の生態と防除

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 中央農業試験場 **いわ 崎 あけ お** **岩 崎 暁 生**

I はじめに

テンサイは、サトウキビと並ぶ砂糖の原料作物で、国内の栽培面積のすべてを北海道が占めている。ペーパーポット苗の移植栽培が主体で、生産者当たりの経営規模が拡大傾向にある近年は育苗労力節減の観点から直播栽培への切り替えも進んでいる。ハウレンソウに似た草丈50 cmを上回る大型の草姿で、数ヘクタールにも及ぶ広大な圃場に畦間60~66 cm、株間20 cmほどの栽植間隔で栽培される。10~11月には一株当たり1 kg程度の根部を機械収穫し、これを原料に各地の製糖工場において砂糖が生産される。圃場での栽培期間は4月下旬の定植から10~11月の収穫時期まで6か月以上に及び、この間、主に葉を食害する害虫による加害を受け、これらを対象とした防除が行われている。また、重要病害であるテンサイ黄化病の病原ウイルスを媒介するモモアカアブ

ラムシへの対策も重要である(表-1)。本稿では、テンサイの主要害虫の発生生態と被害、防除法について紹介する。

II 主要害虫と防除対策

1 ヨトウガ *Mamestra brassicae*

(1) 加害の概要

老齢の6齢時には体長45 mm程度に達する幼虫(図-1)が葉を食害する。本種は蛹態で越冬し、年間2世代を経過する。各世代の加害期間は6月下旬~7月下旬、8月中下旬~10月であり(田中ら, 2014)、幼虫期全体の摂食量の90%近くを老齢時に食害する(図-3右)。卵塊サイズは、第1世代は30~50粒と小さく(図-2)、第2世代は100粒以上と大きい。一方、産卵株率は第1世代が第2世代を上回る事例が多い(小野寺・岩崎, 1998)。なお、テンサイにはヨトウガ以外にもガンマキンウワバ

表-1 テンサイ主要害虫の加害期間と薬剤種別の防除対象期間

害虫種	重要度 ^{a)}	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
テンサイトビハムシ	+	●●	●●				
テンサイモグリハナバエ	±		●●	●●●	●●●	●●●	
カメノコハムシ	±		●	●●●			
ヨトウガ	++		●	●●●	●	●●●	●●●
アシグロハモグリバエ	+		●●	●●●	●●●	●●●	●●●
モモアカアブラムシ	+		●●	●●●	●●●	●●●	
マメクロアブラムシ	±		●●	●●●	●●●	●●●	
シロオビノメイガ	+			●●	●●●	●●●	●●●
ハダニ類	+			●	●●●	●●●	
種子コーティング		○○○	○○				
灌注剤		○○○	○○○				
茎葉散布		○○	○○○	○○○	○○○	○○	

^{a)} ++: 防除実施が基本; +: 多発条件では防除する; ±: 経過把握・現状では防除対象とはならない。